

プロジェクト課題活動実績

課題名：拠点団地を起点とした持続可能なかんきつ産地の再生

柳井農林事務所農業部 チーム員：岡崎、青木、弘中、迫村

<活動事例の要旨>

高齢化と担い手不足が進み、生産量の減少が続く周防大島町ではかんきつ産地維持のため、担い手の育成が急務となっている。そのため、「大島郡柑橘振興協議会」において「大島かんきつ産地継承夢プラン」を策定し、担い手の育成と効率的な営農が可能な拠点生産団地の整備を推進する。

担い手育成では町独自の研修体制を整備し、今年度、2名が研修し、28年度から1名が就農する。現在、11名が給付制度を活用して就農しており、技術指導や園地の集積やハウス導入等の経営基盤強化に対し支援している。

1 普及活動の課題・目標

周防大島町は、後継者不足により、生産量・販売高ともに減少傾向が続き、産地の維持が難しい状況となっている。

そのため、新たな産地再生プランとして「大島かんきつ産地継承夢プラン」策定し、このプランを具現化するため、新規就農者の育成体制強化、高品質安定生産技術の拡大及び普及、拠点団地での効率的営農体制を推進する。

2 普及活動の内容

(1) 新たな大島みかん産地再生プランの策定

- ・「大島郡柑橘振興協議会」で新たな大島みかん産地再生プランを作成した。

(2) 担い手確保体制の再構築・担い手確保体制の整備

①新規就農者受け入れ体制整備

- ・研修生の受け入れ農家を協議選定した。
- ・農地継承における中間管理組織を協議し、継承園地の中間管理作業において農地中間管理機構の活用を検討した。

②研修中の支援体制の整備

- ・関係機関と協力して、研修生の技術取得を支援し、研修生の農地を調整した。また、研修生の営農計画作成を支援した。

(3) 担い手の経営安定に向けた定着支援

①新規就農者の育成

- ・新規就農者に対し関係機関で定期的に巡回し、技術指導や経営や生活状況を確認・指導した。
- ・個別巡回を行い、技術指導を実施した。

②農外参入企業の定着

- ・参入企業に対し、栽培技術及び基盤整備園地の参入を指導した。

3 普及活動の成果

(1) 新たな大島みかん産地再生プランの策定

- ・新規就農者の育成体制強化、高品質安定生産技術の拡大普及、拠点団地での効率的

営農体制整備を進めることで産地を維持する「大島かんきつ産地継承夢プラン」を策定した。

(2) 担い手確保体制の再構築

①担い手確保体制の整備

ア 新規就農者受け入れ体制整備

- ・かんきつ園地の中間管理方法は JA 山口大島を中心とした組織を設立することで協議を進める。
- ・研修受け入れ農家をリスト化し、各地区に後見人となる受入農家を設定したことで、就農希望地区へ受け入れやすくなった。

②研修中の支援体制の整備

- ・構築した研修体制を活用して、青年就農給付金準備型 1 名、営農支援員 1 名が現地研修を実施した。
- ・準備型 1 名は研修中に農地を借りることができ、28年 4 月から就農する。営農支援員 1 名は準備型に移行し、受け入れ農家で研修する。

(3) 担い手の経営安定に向けた定着支援

①新規就農者の育成

- ・青年就農給付金開始型を活用して、11名（うち 2 組夫婦型）がかんきつ栽培に取り組んでいる。
- ・新規就農者は、園地集積や基盤整備事業への参加、ハウスやマルドリ栽培を導入するなど経営基盤を整えつつある。
- ・生活改善士が新規就農者に対して生活面のアドバイスや意見交換を行う交流会が定着し、参加者も増加した。

②農外参入企業の定着

- ・基盤整備事業に参加し、区画整理園地に「せとみ」の植栽と団地型マルドリ栽培に参加し、規模を拡大した。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 担い手確保体制の再構築

- ・耕作を止めた優良園地を一旦ストックし、管理や新改植した上で、新規就農者に継承する体制を JA を中心とした組織とすることで協議を進める
- ・準備型 1 名、支援員 2 名の就農を支援する。
- ・首都圏での就農ガイダンスやホームページ等を活用した新規就農者の確保対策を検討する

(2) 担い手の経営安定に向けた定着支援

- ・新規就農者には一層の技術力向上、住居や初期投資負担の軽減及び持続的経営可能な条件整備、特に優良園地集積による規模拡大への支援を進めていく。
- ・援農サポーター制度等、営農補完体制を再構築する。